

主 催： 渡部昭男（研究代表者）大阪成蹊大学（特別招聘教授）／元神戸大学
 基盤研究(C)課題番号 19K02864（2019-21年度）・22K02702（2022-25年度）
 高等教育における経済的負担軽減及び修学支援に係る法・制度・行財政の日韓比較研究
 コロナ禍における高等教育の経済的負担軽減及び修学支援に係る日韓比較研究

日 程： 2022年 **12月16日(金)**（開場 12:45） 13:00～16:00

企画テーマ：

高等教育への権利

——キム・フンホ教授／石井拓児教授の論考をもとにした韓日研究者の対話——

趣 旨：

2022年は、日韓におけるふたつの「10周年」が重なった年である。すなわち、日本政府が国際人権A規約13条の漸進的無償化条項の留保を撤回（2012）してから10年、韓国政府が給付型の国家奨学金を本格実施（2012）してから10年にあたる。キム・フンホ教授は「大学登録金の負担緩和のための韓国政府の政策的努力及び関連法律の変化」を寄稿し、韓国政府の政策動向を紹介している。石井拓児教授は「高等教育授業料をめぐる国際的動向と高等教育財政研究の理論的課題」を寄稿し、アメリカの授業料無償化政策の現段階と公私混合負担の日本の特質を論じている。本企画は、お二人の論考を共有財産とした、対話を深めるための企画の**第四弾**である。なお、クリストファー・マーチン『高等教育への権利：政治理論』（Christopher Martin, *The Right to Higher Education: A Political Theory*, Oxford University Press, 2022）を日韓双方からどう読み解くことができるのかも含めてみたい。

司 会： 渡部 昭男（大阪成蹊大学／元神戸大学）

次 第：

13:00～ 開会挨拶：渡部 昭男

13:05～ **提案①：** キム フンホ(Kim, Hoonho)氏（公州大学校教授／教育革新本部副本部長）

「大学登録金の負担緩和のための韓国政府の政策的努力及び関連法律の変化」

日本語 <https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012469>

韓国語 <https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012468>

通訳：肥後 耕生氏（豊岡短期大学講師）

13:50～ **報告②：** 石井 拓児 (Ishii, Takuji) 氏（名古屋大学教授）

「高等教育授業料をめぐる国際的動向と高等教育財政研究の理論的課題：アメリカの授業料無償化政策の現段階と公私混合負担の日本の特質をめぐって」

日本語 <https://hdl.handle.net/20.500.14094/90008951>

韓国語 <https://hdl.handle.net/20.500.14094/90009305>

通訳：ユン テウ氏（北海道大学大学院生）

14:35～ 休 憩

14:45～ 総合討論

15:55～ 閉会挨拶：渡部 昭男

参加呼掛け： 科研費で寄稿をお願いした両国の研究者による ZOOM 集会

（日本教育学会、日本教育行政学会、日本教育法学会、大学評価学会などに企画を案内）

照 会 先： 渡部昭男 [awtnb2188\(アットマーク\)gmail.com](mailto:awtnb2188@attmark@gmail.com)（参加無料／要事前登録）

事 前 登 録： 申込書 <https://forms.gle/46GkRkRj6tjKAUH5A>

備 考： Kernel にアップしている論考をベースに意見交換する形で共同研究を深めたい。科研費研究は広く一般に成果を還元することが求められており、当日資料と ZOOM 録画を神戸大学学術成果リポジトリ Kernel にアップし公開する。